

副 本

# 「押出」に発展可能性

## 沖縄型金型

〈1〉

1面から続く

### 芽吹く技術

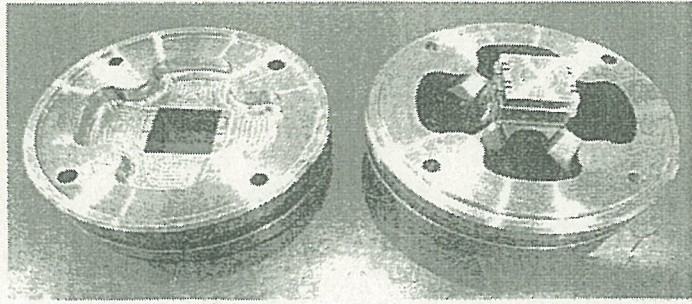
状の製品をつくるために、押出機の出口に取り付ける金型

「きれいに加工されている」。金秀アルミ工業の担当者らは成形具合に細かな要望を口にしながらも、仕上がりがつつある押出金型の出来栄えに目を見張った。

同社から金型製造を受注した、ものづくりネットワーク沖縄が手掛ける4個目の金型で、設計や加工、焼き入れなど全工程を初めて県内で実施し、1カ月かけ製造に取り組みできた。

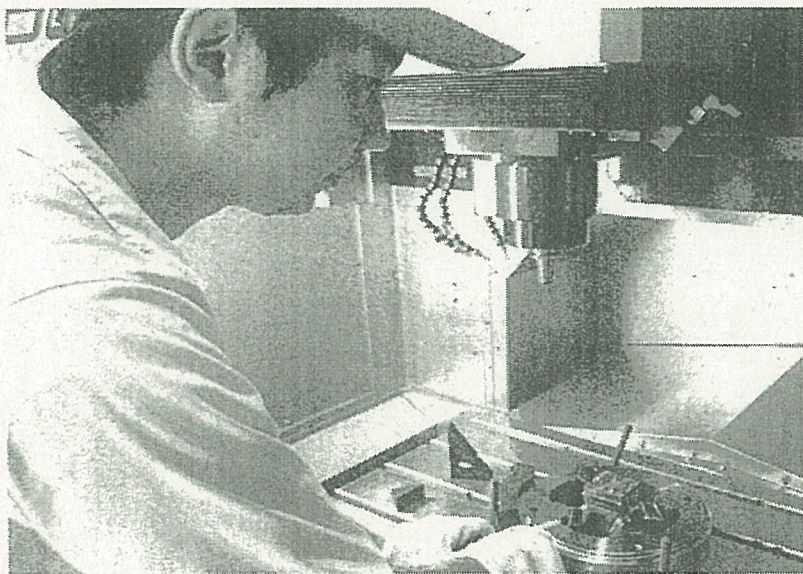
完成後は4個目にして金秀アルミが本格的に実践する予定だ。

押出金型は連続的に一定形



ものづくりネットワーク沖縄が製造を手掛ける押出金型

## ものづくり社、県内初製造



金秀アルミ工業から受注した押出金型の加工を手掛けるものづくりネットワーク沖縄の従業員＝うるま市の素形材産業向け賃貸工場

## 金秀アルミ、本格活用へ

た穴の形状に形材が細長く出てくる仕組みだ。

金秀アルミはこの手法を採用し、一般住宅やアパート、事業所など沖縄の建築物に多く利用されるアルミサッシの多品種少量生産のニーズに対応。1日に20〜25型を入れ替え建材を製造し、月平均約2

10tを生産する。

新たな商品開発もあり、1カ月に約20種類の新規金型を発売しており、保有する金型は約3千個に達している。

そのため新規の金型製造や消耗した金型の更新で金型に関する経費は年間3千万〜4千万円にもなる。倉庫に並ぶ金型を前に同社押出課の吉山仁課長代理は「この事業だけでなく大きな産業を創出するだつたね」と説明する。押出金型を両側から支える補助工具類も金型の一部として外注しており、「産業として採算性は十分にある」と事業の可能性を見通した。

うるま市の国際物流拠点産業集積地域に、金型製造業を中心に機械装置メーカーや自動車製造業の立地が相次ぎ、沖縄がものづくりの拠点として内外から注目を集めている。県内の製造業は県内総生産に占める割合が約4%と低く、長年、産業振興の課題として横たわってきたが、活性化する動きが生まれつつある。進出企業を中心に沖縄のものづくりの今を追う。

（謝花史哲）  
（水一金曜掲載）

金城盛順理事長は「より多くの金型を製作する中で、技術力を高め、県内の金型生産システムの構築を図りたい」と強調した。

業に協力。人材育成にも連携して取り組んでいる。

業1社が進出。研究開発や金型製造を手掛ける一方で、ものづくりネットの事業に協力。人材育成にも連携して取り組んでいる。